

気になるとちぎ

話題の人に聞く

□414□

「全国から出品された和牛、交雑種計340頭の中で最高賞に輝きました。」

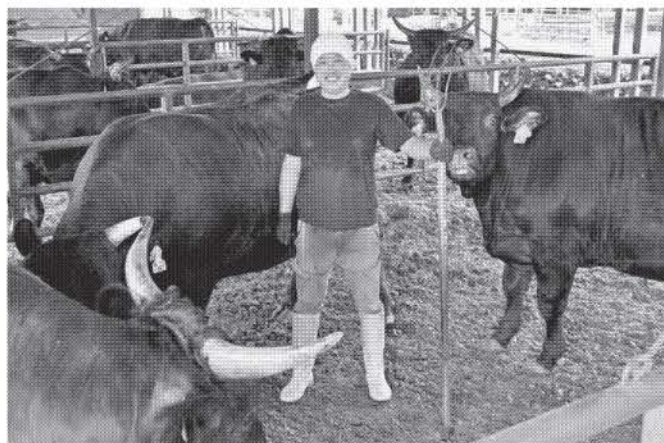
「とちぎ和牛を日本一のブランド牛にしようと努力してきたので、7年ぶりにとちぎ和牛が頂点に立ったことがうれしいです。県内で1番の和牛農家を目指し、同業者たちと『してきたことが今回の賞につながったと思います』」

「どのような経緯でその牛を育てたのですか。」「長男が通う高校の同級生の家が繁殖農家で、そこで生まれた子牛を育てました。生粋の鹿沼生まれ、鹿沼育ちの牛です。イメージ通りの良い体形に仕上がったので入賞は期待していましたが、名誉賞はまさかでした。今思えば、賞を取るために

和牛肥育農家

まち い かず たか
町井 一貴さん(51)

うちに来た牛だったのか
なと思います」
「枝肉の厚みや美しさ、サシの入りが高い評価を得ました。良い肉をつくるためのこだわりは。」
「能力のある子牛を競り落とすことです。サシが入る、体が大きくなる血筋など子牛の血統を調べ、仕入れています。さまざまな血統の子牛を飼いい、自分の育て方に合う牛を勉強することも欠かせません。自分が良く育てられたと思う牛が、市場で高く評価されたときが一番うれしいですね」
「就農12年目。農家になった経緯を教えてください。」
「大学卒業後、東京都内で就職しようと思いましたが、就職氷河期で希望通りの就職先がない



「名誉賞受賞は通過点。今後もおいしい肉をつくりたい」と意気込む町井さん＝鹿沼市塩山町

1974年生まれ。茂木町出身。茂木高、城西大卒。トヨタレンタリース栃木、栃木トヨタに計16年勤務し、妻の実家が宮む和牛肥育農家に転身。鹿沼市塩山町。

「妻の父が牛を育てていて、仕事が休みの月曜や長期連休のときに手伝っていました。餌やりや寝床の掃除から始まり、子牛の仕入れを任せられるようになりました。自分

が競り落とした子牛が、うまく育ってくれたのがうれしくてのめり込み、就農を決意しました」
「育てる中で最も大切にしていることは何ですか。」

【3】記事の内容に合う選択肢を一つ選びなさい。
(ア) 町井さんは、幼い頃から牛を育てていた。
(イ) 義父の宮む和牛肥育農家を手伝ったことをきっかけに、町井さんは就農した。
(ウ) 町井さんが牛を育てる上で最も大切にしているのは、とにかく市場で高く売ることである。
(エ) 町井さんは自動車関係の仕事を始めるか、それとも就農するか、悩み続けていた。

【4】あなたが記者だったら町井さんにどんなことを尋ねたいですか。質問を考えましょう。

7年ぶりの日本一結実

「高く評価された時こそ『次も頑張るぞ』と力が入ります。今回の受賞は、牛が元々持っている能力が大きく、牛に取らせてもらったようなものです。受賞を通過点として、仲間の農家と共にさらに頑張りたい。『おいしい』と言ってもらえる牛を安定的に生産し、とちぎ和牛のブランド力を上げ、魅力を広めたいです」
(聞き手 野中美穂、写真 近藤文則)

設 問

【1】記事中の□に当てはまる四字熟語は次のどれですか。

(ア) 鶏口牛後 (イ) 千差万別 (ウ) 威風堂々 (エ) 切磋琢磨

【2】記事中に登場する次の漢字の読みを、送り仮名を含めてひらがなで書きなさい。

①生粋②競り落とす③血統④氷河期⑤寝床⑥経費⑦繊細